

令和 3 年度

事業所名： グループホーム やまぶき (ユニット①)

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0390100592		
法人名	協栄テックス株式会社		
事業所名	グループホーム やまぶき (ユニット①)		
所在地	〒020-0064 盛岡市梨木町5-55		
自己評価作成日	令和4年1月19日	評価結果市町村受理日	令和4年5月25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

利用者には音楽体操や歩行運動・踏み台昇降などを通じて筋力低下を防ぐ働きかけを行っている。個々の体力や運動能力・身体機能を考慮し一人一人に合った運動を取り入れている。また、個別の活動のほか、利用者同士と一緒に出来るレク活動も行い、お互いに協力しながら楽しみを持って生活できるように工夫している。
 季節の行事を取り入れ、コロナ禍で外出が思うようにできない中でも季節感を感じられるように努めている。また、屋上を利用し野菜を育てて、水やり・収穫したり、お茶会・シャボン玉遊びをするなど楽しんで生活できるように工夫している。屋上からの岩手山や四季折々の山々の眺めは格別である。
 また、医療に関しては、看護師が常駐しており受診援助や医師への情報提供、家族への連絡や報告も併せて行われているところは、家族にとって一つの安心材料ではないかと考えている。
 この施設は感染症に配慮した造りとなっている。玄関から直接エレベーターで2階に移動でき、感染症が出た場合は職員がそれぞれの通用口から出入りできるようになっている。またキッチンにはダムウエーターを設置している。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/03/index.php?action_kouhyou

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所の経営主体が環境・衛生管理等を手掛けているため、感染症対策等には大きな強みを有しており、例えば、エレベーターやキッチンのダムウエーター(貨物用の小型エレベーター)の設置等により、利用者や職員にとって安心感を持てる居住環境が保たれている。また、夜間想定訓練を冬季の薄暮時に行ったり、市主催のシェイクアウト訓練に毎年参加して実践的な訓練を重ねるなど、災害時の避難訓練にも積極的に取り組んでいる。広い屋上にはプランター菜園があり、利用者は水遣りなどをして野菜栽培を楽しむとともに、岩手山を望む展望にも恵まれ、開放感に浸りながら外気浴も楽しんでいる。コロナ禍で外出機会が大きく減る中にも、花見の時期には近隣のお花見スポットにミニドライブするなどして、利用者の気持ちを和ませる取組を継続している。

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 いわたの保健福祉支援研究会
所在地	〒020-0871 岩手県盛岡市中ノ橋通2丁目4番16号
訪問調査日	令和4年2月4日

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当する項目に○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

事業所名 : グループホーム やまぶき (ユニット①)

自己	外部	項目	外部評価		
			自己評価 実践状況	実践状況 次のステップに向けて期待したい内容	
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	会社共通の理念があり、利用者の『心の声』を汲み取ることを大切にしている。訴え時は話をよく聞きどうしたいのか考えるようにしている。普段の何気ない会話の中や表情・仕草などからも思いを汲み取れるように努力している。	基本理念は玄関や各フロア内に掲示して職員への浸透を図っている。特に理念中の「こころの声をきく」については、利用者の本音を普段の生活を通し把握することを心掛けている。ベランダや屋上での野菜栽培は、「自然とのふれあい」の一環である。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町内会に加入している。コロナ禍で地域の行事自体が行えていない状況である。回覧板や運営推進協議会を通じて地域活動を把握するように努めている。	町内会に加入し回覧板や町内会報が回ってくる。理念では地域との交流も掲げているが、コロナ禍のため、以前にあった花壇作りや廃品回収、ボランティアの来訪等も全て中止となり、利用者も残念に思っている。コロナ禍収束後の再開を楽しみにしている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ禍で地域の人々との交流の機会がなかった。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回会議開催の運営推進会議は、コロナ禍により書面開催が多かった。11月の運営推進協議会はコロナウィルスの感染拡大がおさまりにくく3階に集まり開催できている。施設の取り組みや身体拘束廃止委員会での話し合いの結果など、現状を報告、家族、民生委員や町内会長、地域包括支援センター職員から、意見や情報を頂いた。	コロナ禍のため多くが書面開催となっている。昨年11月のみ集合開催ができたが、再び感染拡大となり書面開催に戻っている。委員会は町内会長や老人クラブ会長、民生委員等でバランス良く構成されている。委員には入居状況や活動報告の資料送付しているが、意見等は寄せられていない。	書面開催での委員への資料送付の際には、返信用封筒を同封したり、意見等に記入様式を記入しやすく工夫するなどして、委員からの意見・質問を汲み取るための取り組みを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議には、地域包括支援センターの職員にも出席して頂いている。また、制度等不明な点については、盛岡市保健福祉部介護保険課事業所指定係の担当者に相談し、指導を受けている。今年度もまた、コロナ禍において、特に盛岡市から様々なコロナ等に関する情報がメールで届いている。毎月、アルコールやマスク等の在庫数についても報告している。	地域包括支援センターとは運営推進会議の他、日常的に連絡を取っているほか、市の担当課とは介護保険制度等の指導を受けている。市が主催する災害時のシェイクアウト訓練に参加しているほか、コロナ関連の予防資材の在庫確認も毎月行われている。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム やまぶき (ユニット①)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止委員会にて日々の取り組みや行動制限となりうる言葉などを検討している。認知症の周辺症状が強くても内服薬で過鎮静とならないように配慮している。玄関の施錠は防犯のために行っているが利用者が望むときは職員と一緒に戸外に出るなどして閉塞感がないように努めている。	身体拘束廃止に関する指針は会社として作成済みであり、委員会は3カ月毎に事業所内で開催している。職員への研修も年1回実施している。スピーチロックに関しては、NGワードカードを作成して職員用トイレなどに掲示して、セルフチェックを促している。転倒防止のためのベッドセンサーは全体で12人が利用しており、家族には説明し了解を得ている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることのないよう注意を払い、防止に努めている	入浴時の身体観察をしっかりと行い、言動も含め些細な変化にも気付けるように職員が連携を取りながら注意を払っている。また、職員間でも不適切な発言があったら声を掛け合うようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用している利用者は1名である。入居時にはすでに利用していた。必要時には制度利用に繋げられるように相談窓口(長寿社会課生きがい推進係・地域包括支援センター・社会福祉協議会等)を把握している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時には契約書・重要事項説明書を詳しく説明している。特に入退居の条件・身体拘束や看取りに関する事は疑問点など無いか確認しながら理解して頂けるよう努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進協議会の中で家族代表の方から意見をいただいている。コロナ禍で面会時間に制限がある中で直接ゆっくりと話を伺うことが難しかった。利用者からは職員が直接要望を聞くことが多く、可能な限り実現できるように努めている。	利用者からは会話の中から、食べ物や外出先の希望や、隣室の人がうるさい等の苦情などを聞き取り、職員間で共有し対応している。ご家族からは面会や通院の付添で来所の際に意見等を伺っており、爪を切ってほしい等の要望に対応している。家族とのリモート面会については余り取り組まれていない。	コロナ禍が長期化し、家族との面会機会が減少しているため、その対策としてリモート面会等の取り組みも検討されるよう期待したい。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議を開催し、業務の確認や要望を聞き反映している。また、個人的に管理者や代表者に要望を伝える職員や36協定の代表職員を通して要望を聞いており、適切に対応している。残念ながら、使用者と労働者の間には仕事に対する想い等に、若干の乖離があることは否めないと感じる。	職員からは毎朝の朝礼時や、ケアプラン検討のための職員会議等において、個別ケアの内容改善やシフトに関する要望等について出されており、36協定の代表委員からは労働条件に関する要望を聞き対応している。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム やまぶき (ユニット①)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者は管理者や職員がそれぞれの得意分野を活かし、やりがいをもって働けるように努めている。 子育て世代や一人一人への就業時間の配慮、職員全員の希望休への配慮などなるべく希望に添えるようにしている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験年数や技術にあった研修に参加できるように配慮しているが、コロナ禍で研修参加の機会は大きく減ってしまった。 内部研修で感染症に関する事や虐待・身体拘束に関する研修を行っている。eラーニングでの研修も2名終了した。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ禍で交流はない。 ウェブでの研修会に参加して情報交換を行った。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	事前調査・入居時に本人や家族から話を聞き生活の全体像を把握している。入居時から言動を観察し本人の不安ごと・困りごとなどないか伺っている。また、家族にも相談したり話を聞いたりして本人が安心して生活できるように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談の段階から家族の困りごとを聞くようにし、入居に当たった不安ごとや要望を伺うようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居前に頂いた情報から入居時のケアプランを作成している。可能な限り本人や家族の希望を取り入れるように配慮している。 また、生活する中で必要な支援があれば家族・主治医とも相談している。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム やまぶき (ユニット①)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者・職員一緒に食事の片づけをしたり、野菜作りのコツを聞いたりして得意分野で役割を持って頂けるようにしている。手伝って頂いたときは感謝の言葉を伝え生活を共にする者同士の関係を築けるように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ケアプラン・モニタリング・広報などの誘導で施設での生活ぶりを報告している。 コロナ禍で面会時間や外出・外泊が制限されている為広報の回数を増やしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	なじみの美容院に通っていた方もいたが、コロナ禍となり施設内での対応となっている。毎月訪問理容の方が来てくださりなじみの関係となりつつある。	コロナ禍のために外出機会がなくなり、来訪する知人等もない状況が続いている。その中において、理容師が毎月来訪し利用サービスを行っており、ほぼ全員が訪問理容を新たな馴染みとしている。また、すぐ近所にお花見スポットがあり毎年楽しみにして出かけている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合いそうな利用者同士を同じテーブルにし会話をしながら食事やレクをしている。協力してパズルを完成させたり、折り紙の折り方を教えあったり、クラフト作りでも出来ないところを出来る方が手伝ったりして関係を築いている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も必要に応じて情報提供をしたり、町で家族に会った際は挨拶を交わすなどして関係を続けている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	希望や要望を口にできる利用者に関してはお話を伺い、希望を口にできない利用者であっても仕草や言動から本人がどうしたいと思っているかその立場に立って考えるようにしている。	ほぼ半数の利用者が言葉で思いや意向を伝えることが出来ており、外出や食べ物の希望が良く出されている。言葉で表せない利用者とは、その表情や問いかけへの反応などから、その「こころの声」を読み取るよう努めながら、理念の実践に努めている。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム やまぶき (ユニット①)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に本人・家族・ケアマネージャー・利用していた事業者などから話を伺うようにしている。また、入居後も様々な会話の中から今までの生活ぶりを把握するようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活リズムを大切にしている。利用者一人一人に合わせた運動やレクの提供など、その利用者の能力によって内容を変えている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	入居時にケアプランを作成し3か月ごとに評価している。要介護度が変更になったり退院後の状況尾に応じて期間にかかわらずにケアプランの見直しを行っている。家族には郵送で確認してもらい要望があればその内容を反映させるようにしている。	入居時には暫定のケアプランを作成し、3か月後に改めてカンファレンスを経て正式なプランを決定している。プランの見直しは3か月毎を基本としており、その際のモニタリングは、1階ユニットでは担当職員が、2階ユニットでは全職員が行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の日誌には生活ぶりを記入し、特記事項については介護支援経過も作成している。また、日々の気づきや申し送り事項についてはノートも活用し職員間で情報共有できるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	家族の状況も考慮しながら事業所が出来る事を柔軟に対応している。また、本人にとって今何が必要かを考え、場合によっては他サービスの情報提供もしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ禍となり地域との交流もほとんどなくなってしまった。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医への受診を家族と協力しながら援助している。希望があれば主治医を協力医に変更し受診援助を行っている。受診後は電話にて家族に報告をしている。家族対応で受信する場合主治医あてに情報提供を行っている。緊急の場合は、家族の了承を得て協力医受診を施設が対応する場合もある。	半数の利用者が近所の協力医院をかかりつけ医としており、他は市内の認知症治療の診療所への通院を入居前から継続している方もいる。事業所には看護師が勤務しており、2ユニット全体の看護業務を担当し、安心感がある。また、歯科は、訪問診療を受診している。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム やまぶき (ユニット①)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	申し送り時に看護職も参加し夜間の状況を把握している。対応について相談したり必要に応じて受診対応している。高齢者は排泄に関する問題が多く、報告・相談して適切な処置を提供している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	かかりつけ医・総合病院どちらにも協力医があり急変時の救急対応の際、迅速に対応してもらっている。 病院担当者・家族と連携を取りながら必要なものを届けたり状況を伺うなどして早期退院に向け支援している。退院後も協力医・主治医と連携を取り症状の変化に注意している。また必要に応じて協力医に相談・助言・指導を頂いている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居時に施設の方針について説明をし理解して頂いている。状態の変化があるごとに家族・主治医と相談し家族の意向・方針を共有している。	重度化や看取りに関する説明は入居時に本人や家族に行い了解を得ている。看取りに関する指針は会社として作成しているが、協力医の確保等の課題もあり、まだ看取りの経験はない。重度化した場合には、特養施設等への住み替えを支援している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の対応については各階に掲示し慌てたり忘れたりしないようにしている。マニュアルを作成し職員間で共有している。救急搬送の手順等自主訓練をおこない危機管理意識を高めている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回行う火災時の避難訓練のほか、盛岡市のシェイクアウトに参加し地震・水害時の避難訓練も行っている。シェイクアウトの際に防災備品の確認・避難場所への経路・所要時間の確認も行っている。会社としても防災マニュアルも作成し有事の際の本社からの応援職員・連絡先等も明記されている。	年2回の火災避難訓練を実施しており、2階からの避難場所は、エレベーター停止を想定して2階ベランダとしている。また、夜間想定訓練は冬季の夕方5時に行い、暗さを実感しながらの訓練が出来た。また、市が主催するシェイクアウト訓練に参加し、ヘルメット着用で系列のデイサービスまでバスで避難している。	

事業所名 : グループホーム やまぶき (ユニット①)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	今までの生活歴や習慣を尊重し一人一人に合った声掛けや対応をしている。特に排泄や入浴時には声掛けし気を付けている。	ここに寄り添うという事業所の理念を実践するべく、利用者の尊厳を大切にしてケアに当たっており、排泄時の支援等では優しい声掛けを励行している。入居まもなくは適応に時間がかかる方もあり、少しずつ慣れていくよう支援している。それぞれの生活歴も理解したうえで丁寧な声掛けと支援に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	個別のレクは何がしたいか伺い対応している。思いを表せない利用者には能力に応じたものや集中できるものを提供するようにしている。また、本人の生活歴の中から好みに合いそうな物を提供するようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人の生活リズムを尊重している。食事の時間をずらしたり、休みたいときは居室で休んでいただくなど、本人のペースで生活して頂いている。一緒に生活する中で利用者の一日のリズムも大体把握できており必要に応じて静養して頂く等、穏やかに生活できるように努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期定期に訪問理容を利用している。同じ美容師が来ており馴染みの関係になりつつある。一人一人に合った髪形やカラーをして下さっている。利用者が使い慣れた化粧品を使用している。爪切り・耳掃除は定期的に行っている。季節に合ったものを着用できるように配慮し、食べこぼし等ないか配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	屋上菜園で野菜を一緒に育て収穫したり梅を漬けたり菊の花もぎをしたり、出来る事を手伝って頂いている。 テーブル拭きや食器拭き等能力に合わせて手伝って頂いている。	献立は会社として作成しているが、利用者の好み等もある程度反映できている。調理は職員が担当し、利用者は屋上のプランターでの野菜栽培で水遣りや食材の準備、食器拭きなどを手伝っている。誕生日にはお花やケーキでお祝いし、おやつも提供している。また、季節には桜餅などを皆で作楽しんでる。	

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム やまぶき (ユニット①)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の好き嫌いを把握し提供している。また、疾患や嚥下能力・口腔内の状態に合わせた形態で食事提供している。食欲のない利用者には好みのものや食べられるものを提供し、口から摂取できるように努めている。必要な栄養・水分を一日を通じて確保できるように努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声掛けで本人の口腔内に応じたケアを行っている。訪問歯科により口腔内の衛生管理指導を受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	食前・食後のほかにチェック表を活用して時間の空いている利用者にはさりげなくトイレ使用の声掛けをしている。一人一人に合ったパンツ・パッドを使用しなべくトイレで排泄できるように努めている。尿量によりパッドの大きさを変え布パンツへ変更した利用者もいる。訴えることが出来ない利用者でも落ち着きがなくなった時や仕草を見てトイレ誘導し、汚染を減らすように努力している。	排泄チェック表を基本として、本人の仕草などを見ながら適時の排泄誘導と支援に努めている。現状では布パンツで自立の方が全体で5人おり、他は大半がリハビリパンツとパットの利用である。オムツ使用は夜間のみ1人となっている。入居後に布パンツ使用に改善した方もいる。排泄で失敗した際には、さりげない声掛けと処理を心掛け、尊厳に配慮している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	利用者の排泄チェック表を活用し排便の有無を確認している。便秘予防の為にヤクルトやヨーグルトなどを取り入れている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	2~3日に一度、本人の体調に合わせて入浴している。体調の優れないときは翌日に入浴するなどしている。	浴室は1階と2階にそれぞれあり、週2、3回の入浴となっている。職員は主に背中洗いやシャンプーを手伝い、1対1となる会話の時間を楽しみながら支援している。水虫の方もおり足元のタオルを交換して感染予防している。入浴拒否する際には日にちを変えたり、いろいろ工夫して対応している。柚子湯も楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	就寝前はゆったりと安心できるような声掛けを心掛けている。テレビを見ながら入眠する方に関しては寝入った事を確認して職員が消したりしている。居室の明るさや環境を本人に合わせ穏やかな気持ちで入眠できるように努めている。また、休みたいときはいつでも居室で静養できるようにしている。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム やまぶき (ユニット①)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬情報は全職員が確認しない様を把握するようにしている。変更があれば申し送りノートに記入し情報共有している。処方薬は鍵のついたキャビネットに保管しており看護師・管理者が配薬、遅番・夜勤者と一緒に確認し間違いを防いでいる。服薬時は袋に書いてある文字を読み上げ他職員に確認してもらったうえで本人の前で再度名前を読み上げ、口の中に入れ飲み込んだことまで確認している。服薬後は袋の中身を確認し飲み忘れ・飲ませ間違いがないように何重にもチェックをしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人の生活歴を把握し興味がありそうなことを見つけ、能力に応じて役割を担って頂いている。感謝の意を伝えながら満足感が得られるように配慮している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍により外出頻度が大幅に減ってしまったが気分転換のために戸外・屋上に出て外気浴をしたり、ドライブを楽しんだり人が少ない所を選んで出掛けるようにしている。	コロナ禍以降は、以前のような外出支援ができなくなったが、それでもユニットごとにデイサービスの車両を活用して岩手公園や高松の池、雫石園地等へお花見ドライブ等で外出し楽しんでいる。また、玄関先や屋上に出ての外気浴も行い、気分転換を図っている。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的に紛失などの理由で利用者の金銭の持ち込みは行っていない。家族と本人の希望があり同意を得た利用者はお金を所持している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を持ち込んでいる利用者は好きな時間にご家族や友人と連絡を取っている。操作方法が分からなくなった場合は職員が支援している。また、年賀状や手紙のやり取りをしている利用者もいらっしゃる。		

令和 3 年度

2 自己評価および外部評価結果

事業所名 : グループホーム やまぶき (ユニット①)

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関付近や出窓には観葉植物を置き、ベンチに座って寛げる空間となっている。利用者の集まる食堂は楕円形や三角形のテーブルを用いており利用者が座りやすいように配置している。廊下の電気は調整可能でその日の天候や時間帯に合わせて明るさを変えている。掲示板には季節の作品や写真を飾っている。トイレは人感センサーとなっており、足元を照らすライト・立ち上がりを支援するために可動式の横手摺を備えている。屋上にはテーブルや椅子を用意しお茶を楽しむこともできる。	ホール内はクリーム色を基調にして、明るく落ち着いた雰囲気となっている。採光も十分にあり、壁面には利用者と職員とで作成した季節感のある桜などの作品が飾られている。ホールでは、レクリエーションとして利用者が唱歌を歌ったり、カラオケやパズル等を楽しみ、毎日の体操も行っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関前ホールにはベンチがあり一人で寛げたり、職員や他入居者と腰かけて個別に話せる空間となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	クローゼットやチェスト・ギャッジアップベッドを備え付けているが、使い慣れた家具やテレビなどを設置している方もいる。写真を飾ったり使い慣れた道具を持ち込み居心地の良い空間となる様工夫している。	居室にはベッドやチェスト、クローゼットが備付けられ、利用者は衣装ケースや家族写真などを持ち込み、ちぎり絵の作品等も飾られている。暖房は各居室のパネルヒーターがあり、冷房は廊下部分に設備したエアコンで対応して適温に保たれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	一人一人の力を活かして生活できるようトイレは文字表記・絵表記とある。居室ドアには名前を明記し間違えない様に配慮している。歩行器使用の方は次の行動を起こしやすいように進行方向に歩行器の向きを変えておく等、安全に生活できるよう支援している。		